

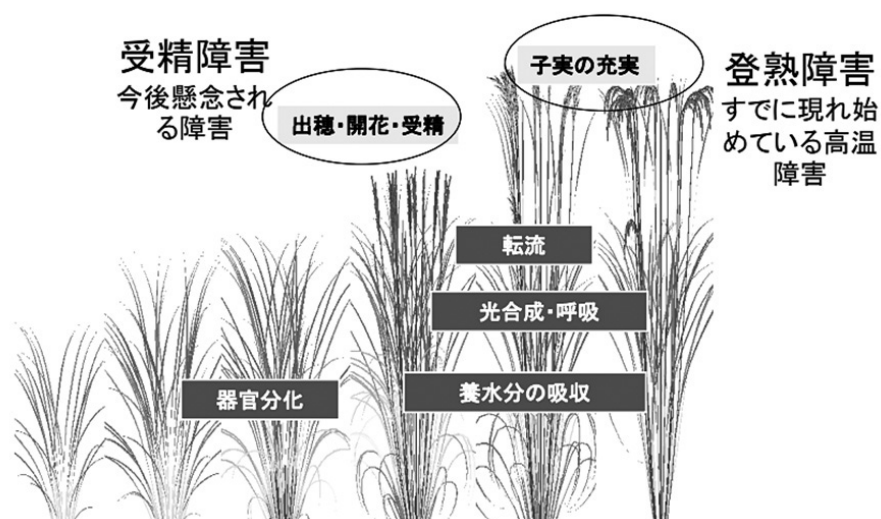
宮農だより

金 沢 営 農 協 議 会
J A 金 沢 中 央
石 川 県 農 業 共 済 組 合

高温障害注意！

近年、夏場の異常高温による米の収量・品質の低下が懸念されています。
一昨年は、この異常高温の影響により全国各地で1等米比率が著しく低下しました。今夏も高温が続くと予想されておりますので、しっかり対策を行いましょう。

異常高温の水稲への影響



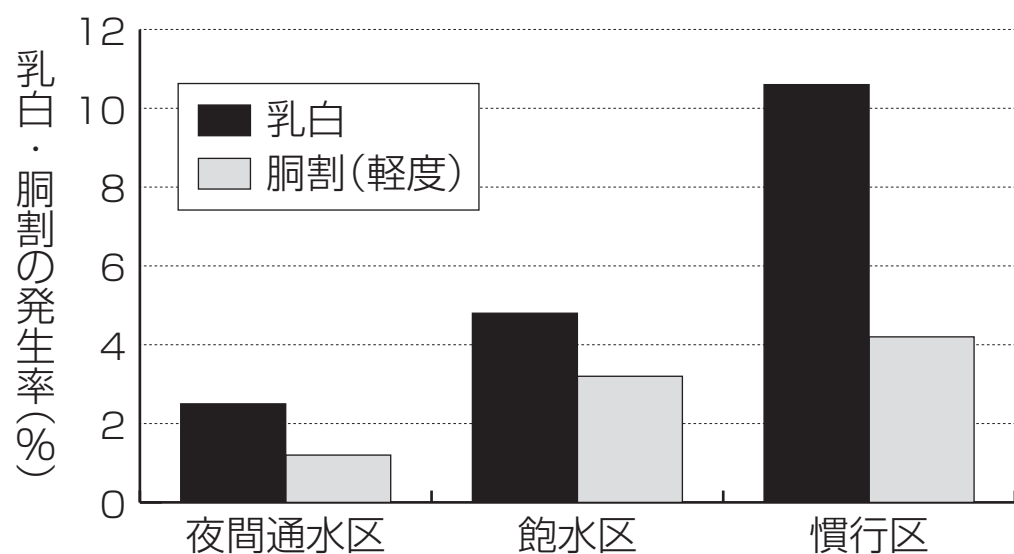
水稲うるち玄米等級検査結果(北陸)

年産	1等	2等	3等	規格外
7年産	79.7%	17.7%	1.2%	1.1%
6年産	82.5%	14.7%	1.5%	1.3%
5年産	37.9%	36.7%	23.0%	2.4%
4年産	79.3%	18.4%	0.9%	1.4%
3年産	84.5%	13.5%	0.8%	1.1%

●登熟期における品質向上のための水管理

- ①2～3日おきの間断通水が基本ですが、高温等の稲体が消耗する気象条件下では毎日でも通水を実施しましょう。フェーン現象が予想される場合は、あらかじめ通水し土壌水分を保持しましょう。
- ②高温となる日中の湛水を避け根の健全化に努めましょう。通水は夜間通水が効果的です。
- ③刈取直前まで飽水管理を継続しましょう。

出穂後の水管理が品質に及ぼす影響(石川農研)



高温年においては5日間隔の間断通水を行う慣行区に比べて、夜間通水により乳白粒や胴割粒の発生が抑えられる。

夜間通水を行えない場合でも、通水間隔を短くして土壌を常に飽水状態に維持すると、慣行区に比べて乳白粒や胴割粒の発生を抑えることができる。

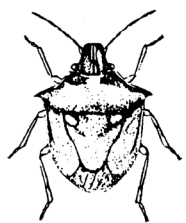
【早すぎる落水は、米の収量・品質を低下させます】

- 落水の時期が早すぎると、稲の根の機能を早く弱め、稲全体の活力を急激に落とします。その結果、デンプンを作って穂に送る葉の働きが弱まり、籾の肥大を途中で止めてしまい収量が低下、また、胴割粒の発生により品質低下を招きます。
- 水分不足で稲体の機能が低下すると、下葉の枯れ上がりが多くなり、着色粒の発生や各種の病害に対する抵抗力も弱くなります。

斑点米カメムシ類の 多発注意報発令中！



7月13日～17日に本田の生育調査を行った結果、近年並に多くのカメムシ発生が確認されました。中でも、トゲシラホシカメムシやホソハリカメムシの発生が目立ちました。



実物大

トゲシラホシカメムシ

トゲシラホシカメムシ

歩行性カメムシで、体色は淡褐色で黒点特徴。8月上旬に稲穂に集まって加害する。



実物大

ホソハリカメムシ

ホソハリカメムシ

大型の飛翔性カメムシで、体は茶色。生育期間が長いため、晩植栽培や晩生品種が集中加害を受けやすい。

カメムシの被害により、**落等**の他、**色彩選別機での歩留低下による減収**が予想されますので、下記の対策を実施してください。

① 防除剤の「2回」散布を徹底！

→ 効果的な時期は【出穂後7～10日後】と【1回目防除の7日後】
詳細は、営農だより第5号をご確認ください。

② 本田除草を徹底！

斑点米の発生減に向け、地域一体となって取り組みましょう！！

刈取り時期の目安

適期収穫に努め、刈遅れによる胴割粒や褐色粒の発生を防ぎましょう。

1 籾の黄化率で判断

1 穂の全籾数の80～90%が黄変したとき。
高温年：収穫開始80%、収穫適期85%
平 年：収穫開始85%、収穫適期90%

2 出穂後の日数での判断

ゆめみづほ	出穂後32～36日程度
コシヒカリ	出穂後30～37日程度

☆刈取り適期の穂



〈刈取り適期の目安〉
籾の黄化率が85～90%になった頃

★ 畦畔等の除草は、収穫直前まで行わないこと！ ★
うまい・きれい金沢産米づくり運動実践中！